

言霊が映す心の姿

日本には昔から「言霊」という考え方があります。

声に出した言葉には力が宿り、現実に影響を与える
と信じられてきました。

作家の相田みつをは「しあわせはいつもじぶんの
こころがきめる」と記しましたが、その心を形にするの
が言葉です。

言霊には「主語がない」とも言われます。誰かを「だらし
ない」と評すれば、強く残るのはその評価の部分です。発
した人の内側に、その響きが積み重なっていきます。つま
り、否定的な表現を重ねるほど、自分自身の心がその色
に染まっていくのです。

反対に、「よく頑張っているね」「あなたは頼もしい」といっ
た前向きな一言は、相手を励ますと同時に、自分の価値
観をも整えます。言葉は空気を震わせるだけでなく、「人
格」を育てる種でもあります。

家庭や学校で交わされる何気ない会話が、未来をつく
ります。周囲のためにも、自分の歩む道のためにも、「選ぶ
言葉」に責任を持ちましょう。

今日の言霊…善き言葉は力

何気なく口にする一言が、自分の心の向
きや行動の質を決めていきます。友人に対し
て「どうせ無理だよ」と言えば、その言葉は
相手だけでなく、自分の可能性まで小さくし
ます。反対に「やってみよう」「きっとできる」と
言えば、前に進もうとする力が湧いてきます。

言葉は単なる音ではなく、考え方を形づく
る材料です。毎日のあいさつ、感謝の言葉、励ましの声かけは、人間関係を
温かくし、自分の表情や態度も変えていきます。だからこそ、発言する前に一
度立ち止まり、その言葉が誰をどんな気持ちにするのかを考える習慣が大切で
す。前向きな表現を選び続けることが、自分自身を成長させ、周囲との信
頼を築く確かな一歩になります。そして、その積み重ねが将来の自分の姿を
形づくっていくのです。



【今回の学び】⇒前向きな表現が未来を拓く！

言霊が映す心の姿

日本には昔から「言霊」という考え方があります。

声に出した言葉には力が宿り、現実に影響を与える
と信じられてきました。

作家の相田みつをは「しあわせはいつもじぶんの
ところがきめる」と記しましたが、その心を形にするの
が言葉です。

言霊には「主語がない」とも言われます。誰かを「だらし
ない」と評すれば、強く残るのはその評価の部分です。発
した人の内側に、その響きが積み重なっていきます。つま
り、否定的な表現を重ねるほど、自分自身の心がその色
に染まっていくなのです。

反対に、「よく頑張っているね」「あなたは頼もしい」といっ
た前向きな一言は、相手を励ますと同時に、自分の価値
観をも整えます。言葉は空気を震わせるだけでなく、「人
格」を育てる種でもあります。

家庭や学校で交わされる何気ない会話が、未来をつく
ります。周囲のためにも、自分の歩む道のためにも、「選ぶ
言葉」に責任を持ちましょう。

今日の言霊…善き言葉は力

★問題一（語句の意味） 本文における「言霊」の意味として最も適
切なものはどれか。

ア 昔の人が使っていた難しい言葉

イ 声に出した言葉に宿るとされる力

ウ 強く大きな声で話すこと

エ 正しい文法で話す能力

★問題二（内容理解） 本文で「言霊には主語がない」と述べている理
由として最も適切なものはどれか。

ア 言葉は必ず相手だけに影響するから

イ 言葉は意味を持たないから

ウ 発した言葉は自分の心にも残るから

エ 主語を使わない表現が多いから

★問題三（内容理解） 本文の内容と一致するものはどれか。

ア 否定的な言葉は相手だけに影響を与える。

イ 前向きな言葉は相手だけを励ます。

ウ 言葉は人格を育てる働きを持つ。

エ 会話はその場限りで未来には関係しない。

★問題四（内容理解） 筆者が読者に最も伝えたいことはどれか。

ア 言葉は慎重に選ぶ必要がある。

イ 強い言葉ほど人を動かす。

ウ 沈黙こそが最も大切である。

エ 感情のままに話すことが自然である。

★問題五（記述） 本文によれば、言葉はどのような役割を持つと述
べられているか。四十文字で答えよ。

【模範解答】

★問題一 解答 イ

○解説④ 言霊とは声に出した言葉に力が宿り現実や心に影響を与えるという日本古来の考え方である。

★問題二 解答 ウ

○解説④ 発した言葉は相手だけでなく自分の心にも残り積み重なるため主語がないと説明している。

★問題三 解答 ウ

○解説④ 本文では言葉は相手を励ますだけでなく自分の人格を育てる種にもなると述べている。

★問題四 解答 ア

○解説④ 筆者は家庭や学校での会話が未来をつくるとし選ぶ言葉に責任を持つ大切さを強調している。

★問題五 模範解答(四十文字)

言葉は人格を育て未来を形づくる力

解説④ 本文は言葉が心に影響を与え人格を育て未来を形づくる重要な役割を担うと述べている。

何気なく口にする一言が、自分の心の向きや行動の質を決めていきます。友人に対して「どうせ無理だよ」と言えば、その言葉は相手だけでなく、自分の可能性まで小さくします。反対に「やってみよう」「きっとできる」と言えば、前に進むとする力が湧いてきます。



言葉は単なる音ではなく、考え方を形づくる材料です。毎日のあいさつ、感謝の言葉、励ましの声かけは、人間関係を温かくし、自分の表情や態度も変えていきます。だからこそ、発言する前に一度立ち止まり、その言葉が誰をどんな気持ちにするのかを考える習慣が大切です。前向きな表現を選び続けることが、自分自身を成長させ、周囲との信頼を築く確かな一歩になります。そして、その積み重ねが将来の自分の姿を形づくっていくのです。

【今回の学び】⇒前向きな表現が未来を拓く！